

令和 8 年度 第 26 回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和 8 年 5 月 28 日 (木)

2 会議の場所

仙台法務局名取出張所 2 階 名取市教育委員会 会議室 4

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 鈴木 博幸

教育長職務代行委員 荒井 龍弥

教育委員 長澤 裕司

教育委員 布田 久美子

教育委員 梅津 美穂

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

別紙のとおり

7 議題

(1) 名取市立学校における重大事態について (学校教育課)

(2) 読書活動の推進について (生涯学習課)

(3) なとり古墳BOOKの今後の活用について (文化・スポーツ課)

8 開会時間

午後 2 時 30 分

9 会議の概要

千葉教育総務課長

これより第 26 回名取市総合教育会議を開催いたします。

開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、ご多忙の中、第26回名取市総合教育会議に、教育長をはじめ教育委員の皆様にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

5月も下旬となり、爽やかな初夏の季節となりました。一方で、市内では熊の目撃情報が相次いでおり、市民の皆様の安全確保が懸念されるところです。また、先日は尚綱学院大学を会場に林野火災防御訓練を実施したばかりであり、地域の安全を守る備えの重要性を改めて実感しております。教育現場においても、児童生徒の登下校時の安全確保等、万全の対策を期してまいりたいと考えております。

さて、本日の会議では、三つの議題を予定しております。一点目は「名取市立学校における重大事態について」、二点目は「読書活動の推進について」、三点目は「『なとり古墳BOOK』の今後の活用について」であります。

子供たちの安全・安心を守ることは全ての教育活動の基盤です。また、読書活動による知の探求や、郷土の歴史を学ぶ「なとり古墳BOOK」の活用は、次代を担う子供たちの心を豊かに育む上で非常に有意義な取り組みです。

教育委員の皆様から忌憚のないご意見を賜り、今後の教育行政、さらには市政発展のための方策とさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

千葉教育総務課長

それでは、3の議題に入ります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めさせていただきます。

それでは市長、議事進行をお願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。

まずは、本日の議題(1)「名取市立学校における重大事態について」であります。が、「名取市総合教育会議設置要領」第8条に基づき、非公開にしたいと思います。

ご異議ございませんか。

全委員

なし。

山田市長

異議なしと認めこれより非公開といたします。

(※「名取市総合教育会議設置要領」の第8条に基づき非公開)

山田市長

これより会議の公開を再開いたします。

次に議題（２）「読書活動の推進について」になります。
事務局より説明をお願いします。

加藤図書館館長

「読書活動の推進について」ご説明させていただきます。

表紙の写真をご覧いただきたいと思います。左側は、小学校校外学習の受け入れの様子です。右側は公民館祭で図書館 PR として、出張図書館の写真となっております。こうした活動は、生涯学習振興計画の後期計画の 14 ページに、施策の展開において、読書活動の推進が挙げられ、図書館で取り組んでおります。

お手元の資料の表紙をめくってご覧いただきたいと思います。

こちらは昨年度末に完成し、この 4 月から始まった子供読書活動推進計画第三次です。読みたい、知りたい、学びたい、をかなえる読書環境を作り、豊かな心を育むために、図書館では、子供を中心に置いて活動しています。

お手元の資料の 1 ページ目の次第をご覧ください。

このような計画を背景に、本日は図書館では、所管の概要、学校、公民館、書店、みんなで市民学生、生徒のそれぞれにおいて、連携をキーワードにご説明をさせていただきたいと思っております。

なお今回、活動の留意点、読書活動の推進に当たり、取り組みへの助言などいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、2 ページ目をお開き願いたいと思います。

図書館の概要となります。蔵書は、約 24 万 5000 冊ございます。図書館の現在の図書館は収蔵能力が 30 万冊、という見込みになっております。開館当時は 18 万冊からスタートし、18 年目の令和 17 年度には 30 万冊になる見込みでございます。

続きまして 3 ページ目をお開き願います。

利用状況となっております。令和 7 年度におきましては、31 万 8000 人ほどの利用者となっております。昨年度より 1 万 3000 人ほど増えまして、この要因としましては、令和 7 年度に、座席数を 49 席ほど、学習環境の整備を図ったところ、利用が増えているという事が挙げられます。

なお、令和 11 年度には、300 万人来館者が発生する見込みとなっております。

お手元の資料の 4 ページ目をお開きいただきたいと思います。

こちらは利用状況、貸し出しする登録者数、新規登録者数、予約画面数などのメッセージとなります。貸し出しの部分に関しましては、伸び悩みが発生しております。⑤予約の部分に関しましても、数字的には、若干比率も推移している状況です。⑥レファレンスの部分に関しましては、年々増加傾向にあります。

予約の本と対になる部分が多いのですが、例えば資料相談で、同等本が欲しいといった場合に、同じようなジャンルで文庫本や、単行本を案内しています。料理本関係でも、平野玲美さんが書いた本が欲しいということで、同様の対応をご案内しております。

お手元の資料 5 ページ目をお開きいただきたいと思います。

ここから繋がるということで、連携の部分についてご説明させていただきたいと思います。図書館を中央に置き、左上に「なとと」の市民活動団体に、図書館のボランティア活動などを企画運営していただいています。

右上に、市民の読書環境の向上ということで、市内の公民館があります。また、左下、小中義務教育学校ということで、団体の貸し出しなどをして、図書館と連携を図り、子供たちの学習環境、読書環境を向上に図っている次第です。

今年度から書店連携ということで右下の部分をご覧ください。未来屋書店との連携を始める予定でございます。

お手元の資料をめくっていただきまして、6ページになります。

学校との連携について、説明させていただきます。学校の図書館の状況になります。

①蔵書の中で、小学校、中学校、それぞれ、15万冊、約8万冊になっております。

一方で②貸し出し数ですが、小学校、令和7年度中では約50万冊貸し出しております。

令和2年度の全国平均は、1人あたり49冊に対して、令和7年度の名取市平均は104冊という貸し出し状況になっております。

なお、中学校に関しましては、令和2年度全国平均は9冊、令和7年度名取市平均は11冊という状況になっています。

お手元の資料の7ページ目をご覧くださいと思います。学校図書館連携状況になっております。

①資料の貸出について、期間1ヶ月で100冊まで、各学校に貸し出しをしております。主に教材、研究、教科の単元など、ニーズに応じて直接貸し出してしております。児童生徒が読みたい本については、教育委員会の文書便を通じて貸し出しを行っています。例えば利用頻度が少ない科学の本など、小学校では習わないような単元の本を読みたい、という児童に対して、個別に対応してあげることで、読書要求に応じております。

②施設の活用ということで、主に小学校2年生の生活科、及び中学校2校が職場体験で図書館に来ております。

③学校図書館支援センターについては、図書館で活動しています。内容としましては、市内学校図書館職員の研修会や、中学校の図書館職員が会計年度任用職員ということもあり、年7回ほど巡回訪問、研修会を9回ほど開催しています。

図書館を使った調べる学習コンクールも、図書館で行っております。昨年度最優秀賞になったお子さんですが、図書館の本を使って調べ、現場に行って調査を行い、研究をし、夏休みに成果をまとめました。これはレプリカなので、本書はもっと綺麗ですが、こちらに鱗がセロテープで貼ってあり、なぜか猫がこの本に載ってきております。こちらの特徴としましては最後のページに、必ず図書館の本を使ったということで、参考文献を書くことが原則になっております。図書館側でもバーコードを整備しており、資料検索の画面に出てくるなど、子供たちにはここにしかない一冊を作ったという励みにもなり、我々も誇りに思っております。

続きまして、お手元の資料の8ページをお開きいただきたいと思います。

公民館図書室の蔵書になっております。利用状況ということで貸し出しを稀に行っています。

続きまして9ページ目をお開きいただきたいと思います。

公民館図書室の連携状況になっております。公民館職員による、資料の貸出や予約資料の提供を行っております。②公民館とシステム巡回訪問ということで、ゆりが丘、那智が丘、相互台の3公民館になり、年に26回ほど隔週で訪問しております。1回当たりの利用は7人で約35冊の貸し出しになっております。滞在時間は45分と短いところもありますが、市民の方々に利用いただいております。

③蔵書の入れ替えを年3~4回ほど行っております。④出前講座ということで、要望に応じてですが、本を通じたサービスということで開催しております。

⑤出張図書館ということで、令和6年度から開催しており、昨年度は3館ほど訪問させていただき、図書館PRと地域の方が見える顔づくりを目指して開催しております。

10ページ目をお開きいただきたいと思います。

書店との連携ですが、昨年度は主に、書店と図書館との連携を模索して参りました。主な連携先としましては、イオンモール内になる未来屋書店との模索でした。

②本屋隊長等によるPOP作り講座ということで、1つの方策の中で現れたものが、宮農・書店・図書館、尚綱大・書店・図書館ということで、7月と11月にそれぞれ推し本POP講座を行いました。この推し本POP講座の講師につきましては、全国に8人ほどいらっしゃる本の案内人である本屋隊長という方々がおり、POPの作成や、未来屋小説大賞の選考委員も兼ねている方々に教えていただきました。例えばこちら、「精霊の守人」という本になりますが、宮農の生徒さんが、約30~40分指導いただき、こういった(生徒が作成したレプリカのPOPと本を提示)「この女強い」を訴えたいっていう方もいれば、志賀直江の「城の崎にて」で、文章で訴えたり、これは尚綱学院大学の方ですが、「孤壘」(学生が作成したレプリカのPOPと本を提示)東日本大震災のテーマ扱ったもので、「あのとき守ったものということで、淡々とこういった未曾有の原発事故、次々と発生する体験自体、極限の状態消防隊、消防施設はどのように行動したのか」という、その先を読みたくなるようなリード文で紹介されております。こういった部分を、本屋隊長に指導いただきながら作成して参ります。

続きまして11ページをご覧くださいと思います。

今年度の部分に関しましては6月21日、協定締結式を締結後に、書店との連携で、予約資料の受け取りサービスを計画しています。図書館から借りた本の返却サービス、書店での図書館のPR、及び書店と図書館のコラボでのPOP講座を始め、バックヤードツアー、出版社に紙芝居の展示方の連携を検討しています。

12ページをお開きいただきたいと思います。

名取市図書館友の会「なとと」について、目的及び事業の部分に関してはこちらへ記載の通りになるので、割愛させていただきたいと思います。現在の会員数は、令和8年3月31日末で179名になっております。

お手元の資料の1ページを、お開きいただきたいと思います。

「なとと」の具体的な活動になりますが、③イベントの企画から始まりまして、通信発行、ボランティアの活動をしていただいております。昨年度の部分に関しましては延べ2265人、実人数は60人程、大体週1回ぐらい活動に来ていただいております。活動の内容は資料をご

覧いただければと思います。

14 ページ目をお開きいただきたいと思います。

活動の部分におきましては、市民の方々からも好評をいただき、河北新報のティータイムの方に、「私の心の薬になっているもの、それは名取市図書館のトイレの花です」という紹介いただいております。

続きまして 15 ページをお開きいただきたいと思います。

生徒・学生ボランティア活動になります。こちら、①から③で、市内学校や短大の学生に協力をいただいて、取り組み書推進を図っている次第でございます。

山田市長

語り尽くせないぐらい語っていただいて、ありがとうございます。

では、ただいま読書活動の推進について説明がありましたが、皆さんの方から何か確認したいことなどはございますか。

全委員

なし

山田市長

では協議に移りたいと思います。

今説明のあった内容は読書活動を推進するため、地域連携による開かれた図書館づくりについてご説明をいただきました。

今後、より一層の読書活動推進に向けて、皆様からご意見、ご提言などがございましたらお願いしたいと思います。

荒井委員いかがでしょうか。

荒井教育長職務代行委員

大変盛んに活動を推進なさっていて、素晴らしいなと思います。

一方で最近の流れからいうと、デジタル化、電子書籍を取りそろえる、もしくは電子図書館等を、各地で出来ているように聞いております。

なかなか図書館に来られない方も、デジタル化で電子書籍があれば、家から貸し出しや返却ができるなどメリットとして挙げられておりますが、今後は多分対応せざるをえないのではないかと。

私は紙の方が好きですが、対応は考えなければならないなと思っていました。

山田市長

電子書籍や電子図書館については、現状の取り組みはないと思いますが、今後の方向性について何か考えはありますか。

加藤図書館長

電子書籍の方に関しましては、紙の本と違い、商用ベースの部分でレンタル料のように、交渉金がちょっと上乘せなければいけないという課題がございます。

例えば、雑誌「るぶ」については1,000円～1,100円となるが、電子書籍だと掛ける何倍となります。

山田市長

金額が高いことが課題ということではよろしいでしょうか。そのうえで、今後は費用がかかっても進める方向なのか、あるいは実施を見送るのかについて、考えを伺えればと思いますが、教育長、いかがでしょうか。

鈴木教育長

少しは揃えても良いと思います。コストは高いと思いますが、例えばちょっと目が見えづらいなどあれば、そういった対応を入れてもいいと思います。実は私も聞く読書をやっており、非常に目の調子が悪い時など良いなと思います。いろんな人に使っていただきたいと考えます。

山田市長

ほかに何か確認しておきたいことがあれば、お願いいたします。
長澤委員どうぞ。

長澤委員

館長さんの説明をお伺いして、非常に頑張っているなと感じました。

市内には、このような取り組みを一生懸命されている方々がいらっしゃり、その活動が市民に広く知られることで、さらにより良く変わっていくのではないかと思います。

啓発活動は、読書活動の促進につながると思いますし、昨年度の全国学力・学習状況調査の意識調査においても、家庭内の蔵書数と学力には相関があるという国立教育政策研究所の報告もありました。

読書には多くの良さがあり、我々の世代にとっては認知症予防にもつながると感じています。できるだけ多くの方が本に触れる機会が増えるよう啓発を続けていただきたいと思えます。

最後に質問ですが、「なとと」の会員数は、今179名だと思いますが、増加傾向にありますか。

加藤図書館長

開館した当初に結成されまして、大体100人前後でしたが、今現在は180人前後で推移しています。

山田市長

伸びていますが、180人ほどで高止まりという現状ですね。

長澤委員

この会員数が名取市の読書活動のパラメーターになってくるのかなと思っています。

山田市長

図書館の取り組みやサーモンを題材にした調べる学習など、良い活動が多くあると思います。これらをもっと市民に伝わりやすい形で発信していくと、より良さが広がるのではないかと思います。

布田委員、いかがですか。

布田委員

新しくPOPも見せていただいてありがとうございます。

絵のみかと思っていたら文章もあり、幅広い取り組みと感じました。

私も本が好きなので、POP講座であれば学生だけでなく、一般の方も参加できると嬉しいと思います。また、POPコンクールじゃないですが、良いなというPOPができ上がったら、図書館や本屋で実際使っていただければ、もっといろんな本を読んでみようかな、という気持ちに繋がるのではと思います。

山田市長

ありがとうございます。

POP講座は大人向けにも実施できると思います。優秀なPOPをコンクール形式で選び、図書館に掲示したり、未来屋書店で販売している本であれば『名取市のコンクールで選ばれたPOP』として紹介するのも良いのではないかと思います。

布田委員

ビブリオバトルのような取り組みもできると、うれしいのではないかと思います。

加藤図書館長

今年度書店連携が始まるので、ちょっと視点を変えて書店さんと書評合戦など、只今ヒントをいただいたので、模索してみたいなと思います。

山田市長

より良い形でお願いします。

梅津委員いかがですか。

梅津委員

朝の見守りの際、子供たちから「借りた本を持ってきた。」という声が聞こえ、本を読む子が多いなと感じています。ゲームなどに流れがちな中で、本を手にとって登校する子もおり、少しずつ広がっていけば良いなと思います。また、調べる学習の最優秀賞などを学校でも表彰することで、家庭での会話に繋がり、次の学びへの良い循環が生まれてくれればと思います。まずは興味を広げることが一番と感じています。

山田市長

自然に広がっていくような、さまざまな仕掛けを考えていけるよう参考にさせていただければと思います。

私の方から、図書館の利用者数は右肩上がりが増えていますが、貸出冊数は50万冊を前後しています。活字離れの問題やリテラシーの向上など、様々な分野で理解力を上げていくためにも文字から理解していくことは大切です。そこに貸出冊数はすごく直結していると思いますので、ご紹介いただいたような工夫を取り入れながら、貸出冊数をどう伸ばしていくかが必要だと思います。

また、公民館については、蔵書数と貸出数には相関があるのではないかと感じています。公民館には、図書館の本を自由に借りられるサービスもありますが、実際の貸出数を見ると、例えばゆりが丘は蔵書約3,000冊で貸出800冊、相互台も約3,000冊で900冊、一方で増田西は蔵書310冊で貸出15冊と差が見られることから、地域ごとに蔵書数に差があることが、読書活動に影響が出ている可能性もあります。

学校との連携についても、蔵書数と貸出冊数に相関があるのか気になるところです。学校は児童生徒数の影響もありますが、公民館の蔵書が少なくても、学校や図書館で多く借りられているのかと思えば、資料を見る限りそうでもありません。地域のご高齢の方も含め、公民館の蔵書数は読書環境を推進する上で大事なことだと思います。

については、小学校と公民館を合わせた蔵書数と貸出冊数の相関を、地区別に分析してみると、何か見えてくるかもしれません。

私からは、以上です。

布田委員

市長からお話のあった、公民館の蔵書についてですが、増田西地区の公民館が近いので来館すると、本が並んでいるが、これは借りていいのかが「貸し出し可能」と書かれていないので、この本はご近所の方がいらなくなった本かと思っていました。ここで読んで良いとは思っていましたが、借りていくことができるとは全然わからず、来館者の皆さんにもあまり認知されていないのかなと思います。

山田市長

その辺も含めて周知していきたいと思います。

図書館の50万冊の貸し出し利用者の内訳年齢は把握されていますか。年代別の構成比を

比較すると、わかりやすいかもしれない。

加藤図書館長

傾向的には、未就学児・小学生の親子世代の利用が多かったが、令和6年度と7年度を比較すると、下落部分がありました。一方でお話し会とかイベントの参加者数、子供たちの来館者は、変わらなかった。むしろ増加傾向にあり、私たちも分析が必要だと感じています。あと50代、高齢者が、年々増加してきています。

山田市長

ターゲットを決めてそのターゲットに見合う蔵書になっているか、例えば親子連れが多いのであればそれに見合う蔵書が十分か、もう少し増やしたほうがいいのか、商売に例えれば売れ筋を広げていかなければならない、と同じである。

ではよろしいでしょうか。

次に、議題(3)「なとり古墳BOOKの今後の活用について」事務局から説明をお願いします。

堀籠文化・スポーツ課長

私のほうから「なとり古墳BOOKの今後の活用について」冊子の作成に至った背景のほか、その特徴や今後の活用について説明いたします。

表紙をご覧ください。

はじめに「なとり古墳BOOKの作成に至った経緯」についてです。

本市には、東北最大の雷神山古墳をはじめとした多くの古墳が存在しており、これまで案内板の設置やイベントの開催など情報発信に取り組んでまいりましたが、内容が専門的で難しい、若い世代へのアピールが弱いなどのさまざまな課題があり、古墳の存在は十分に認知されておらず、市の魅力としても発信しきれていない現況です。

こうした課題を踏まえ、古墳を活かし、来訪と地域の歴史への関心につなげる取組が必要と考えました。

そこで、本市にある数々の古墳を“分かりやすく伝え、現地につなげる”ことを目的として、「なとり古墳BOOK」の作成に至りました。

次のページをおめくりください。

続いて「なとり古墳BOOK完成までの工程」ですが、本冊子の作成にあたりましては、まずプロポーザル方式により業者を選定し、構成や台割の検討を行いました。

その後丸1年かけ、現地での写真撮影を実施しており、ドローンによる空撮や、四季を感じられる写真の収集に取り組みました。

特に、古墳は上から見ることで全体の形が分かるため、そうした視点を重視して撮影を行っております。

また、古墳に関わる方々への取材を行い、内容の充実を図りました。

これらを踏まえ、見やすくそしてわかりやすい冊子となるよう、デザインやレイアウトにつ

いても工夫を重ね、校正・修正を行ったうえで、印刷に至っております。

以上の工程を経て、1年4か月かけて本冊子が完成しました。

次のページをおめくりください。

次に「なとり古墳BOOKの特徴と見どころ」についてです。

本冊子の特徴についてですが

1つ目は、古墳に詳しくない方でも理解しやすい「分かりやすい解説」。

2つ目は、古墳の魅力を視覚的に感じることができる「美しい写真や空撮による紹介」。

3つ目は、「名取市内の古墳を網羅」できるような構成であること。

4つ目は、イラストや図解を多く取り入れ、幅広い世代が楽しむことが出来る「親しみやすい構成」。

5つ目は、「学びや体験につながる」というところで、読むだけでなく実際に古墳を訪れるきっかけと学習活動にも活用することが出来ます。

続いて、見どころについてです。

まず1つ目は、市内の古墳の特徴や見どころを整理した「名取の古墳と歴史がわかる」ページ。

2つ目は、空撮写真を活用した「古墳の魅力をビジュアルで体感」できるページ。

3つ目は、マンガやすごろくといったコンテンツを掲載し「古墳を楽しく学べる工夫」が満載なページが主な見どころとなっております。

このように、本冊子は「見る・読む・遊ぶ・学べる」といった要素を組み合わせることで、名取の古墳の魅力を多角的に伝える一冊となっております。

次のページをおめくりください。

「なとり古墳BOOKの配布と公開」についてです。

本冊子につきましては、歴史民俗資料館、市内公民館での配布、そして市公式ホームページにおいて公開も行っております。

歴史民俗資料館においては、展示とあわせてご覧いただくことで理解を深めていただき、来館者の満足度向上につなげることを目的としております。

次に、市内公民館においては、資料館への来館が難しい方にも手に取っていただけるよう設置しており、身近な場所で古墳に触れる機会を提供しております。

市ホームページにおいてはPDF版を公開しており、時間や場所を問わず誰でも閲覧できる環境を整備しております。

インターネットを介して、市内外を問わず多くの方に古墳の魅力を知っていただくとともに、来訪につながる関心の喚起を図っております。

紙とデジタルといったそれぞれの媒体の特性を活かしながら展開することで、幅広い層への周知と理解の促進、さらには来訪促進につなげていきたいと考えております。

次のページをおめくりください。

次に、「なとり古墳BOOKでできること」についてです。

まず、「知る」という点では、市内にある古墳の分布や特徴を把握するとともに、古墳の規模や歴史的背景について理解を深めていただくことができます。

次に、「行く」という点では、冊子に掲載しているマップやQRコードを活用することで、実際に現地を訪れることが可能となっております。また、「学ぶ」という点では、学校教育や各種講座における教材としても活用できる内容としております。

さらに、「楽しむ」という点では、マンガやすごろくを通して、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができる構成としております。

このように、本冊子は「知る・行く・学ぶ・楽しむ」という一連の流れを通して、理解の深化から実際の来訪へとつなげることを目的とした内容としております。

次のページをおめくりください。

ここからは「なとり古墳BOOKを活用した取り組み」についてお話したいと思います。はじめに配布状況ですが、昨年度5,000部を作成し、今年3月より市内公民館や歴史民俗資料館のほか関連機関に配布を開始しております。

また、3月31日付けの河北新報にも掲載され、多くの反響をいただいているところです。4月末現在で合計1,211部、発行部数の約1/4が既に配布されている状況です。

配布先別の構成比は、市内公民館と歴史民俗資料館の配布で全体の約8割を占めております。配布状況としては順調であり、想定以上のペースで広がっております。今後の配布状況を踏まえながら、配布先の拡大や必要に応じた増刷についても検討してまいります。

次のページをおめくりください。

「なとり古墳BOOKを活用した展開」についてです。

主軸の取り組みとなる「古墳を活用したイベント」では、「難しい歴史」ではなく、まずは興味を持ってもらう入口づくりとして、古墳めぐりや古墳謎解きウォークなどで楽しみながら学べる企画を展開するほか、さまざまな媒体を活用した情報発信、古墳マルシェの開催など、古墳の魅力を体感できる機会を創出していきたいと考えております。

次に、こうしたイベントや教育活動を支えるための仕組みづくりとして、ガイドや講座で使用できる「新しい解説パッケージの作成」を進め、より体験的で分かりやすい学習につなげ、学校教育での活用へと広げていきたいと考えております。

このように、なとり古墳BOOKを起点として、イベント、学習、教育を連動させながら、地域・観光・教育がつながる取組へと発展させ、名取の魅力を未来へつないでいきたいと考えております。

次のページをおめくりください。

今後の課題と必要な取組についてです。

なとり古墳BOOKの作成・配布を通じて、古墳の魅力を知って頂くきっかけづくりは進んできたものと捉えておりますが、一方で、古墳を地域資源としてさらに活かしていくためには、課題に応じた取組が必要であると考えております。

1つ目は、「継続的な発信と関心向上」です。

古墳BOOKを発行しただけで終わるのではなく、多様な媒体を活用し、継続的に魅力を発信していくことが重要と考えております。

2つ目は、「若年層への周知」です。

学校教育やデジタルツールなどを活用しながら、若い世代にも親しみやすい形で周知を進

めていきたいと考えております。

3つ目は、「人材の確保」です。

今後は、ボランティアの確保や育成を進め、活動の場づくりや支援体制の充実につなげていきたいと考えております。

4つ目は、「利便性の向上」です。

案内サインや休憩施設、トイレなど、来訪者にとって利用しやすい環境を整えることで、より多くの方に古墳へ足を運んでいただけるよう取り組んでいきたいと考えております。

そして5つ目は、「回遊性・アクセスの課題」です。

古墳は市内各地に点在しているため、巡りにくさがあることも課題となっています。そのため、トレイルやサイクリングコースなどと連携しながら、歩いて楽しい、めぐりやすい環境づくりを進めていきたいと考えております。

こうした取組を積み重ねることで、古墳を「地域の誇り」として未来へつなげていきたいと考えております。

最後に、今回のまとめになります。

名取市にはたくさんの貴重な古墳が残されており、これらは名取の歴史や文化を今に伝える、かけがえのない地域資源です。

今回作成した「なとり古墳BOOK」を通じて、古墳や地域の歴史に興味を持っていただき、実際に現地へ足を運ぶきっかけや、学びにつながる入口になればと考えております。

今後は古墳BOOKを活用し、イベントや学校教育などを通して、体験・交流・にぎわいへとつなげ、古墳を“見るだけ”ではなく、“楽しみながらめぐる”取り組みへ発展させていきたいと考えております。

古墳は、保存するだけでなく、地域全体で活かしながら未来へつないでいくことが大切です。今後も、地域の皆さまや関係機関と連携しながら、名取らしい歴史・文化を活かしたまちづくりを進めてまいります。

以上で「なとり古墳BOOKの今後の活用について」の説明を終わります。ありがとうございました。

山田市長

ありがとうございます。

ただいま「なとり古墳BOOKの今後の活用について」の説明がありました。本当に非常にいいもの作っていただいたと思っておりますが、説明の内容等について確認したいことがあればお願いいたします。

布田委員

ちなみにですが、小学校6年生で歴史民俗資料館へ訪れているかと思いますが、その時に古墳の方も回っておりますか。

堀籠文化・スポーツ課長

古墳は回っておりません。

山田市長

私の方からいいですか。

利便性の課題のところ、案内休憩トイレ等の利用環境向上とあるが、今の段階で、どの古墳のどの部分のような計画などはありますか。

堀籠文化・スポーツ課長

まず昨年度に雷神山古墳の保存活用計画というものを作りまして、今回はそれを具現化するため、令和8年度から9年度にかけて整備計画を作っていますが、その中で、雷神山古墳の施設整備をこれから考えていく予定となっております。

山田市長

梅津委員、何かありますか。

梅津委員

古墳は身近にあります、実施にそこに触れる機会はほとんどないと思います。昔はよく遠足などで歩く行事が学校でありましたが、今の子供たちはなかなか遠くまで歩くことがないので、親子で参加できる取り組みや、年配の方でも散歩感覚で行けるような企画があっても良いと思います。アプリで歩数やカロリーを測りながら、「カロリーが幾ら減りますよ」といったダイエットにつながる声かけなど、少し工夫をしてみても良いかと思います。

山田市長

ダイエットの話もありましたが、ターゲットを考えて子供たちだけではなく、トレイルや自転車の活用を考えるのも必要でしょう。多方面の分野の人がいる中で、個別な切り口で古墳を通した企画を仕掛けていただきたい。

見どころや課題等についてお話しましたが、今後の取り組みや活用方法について、古墳BOOKを使った切り口も含めて、ご意見等があればお願いしたいと思います。

教育長、学校教育で生かしていくにはどうすることが考えられるでしょうか。

鈴木教育長

今委員がおっしゃったように、遠足はないですが、校外学習をやっておりますので、校外学習で活用する方法もあります。学校によっては5分で行ける場所もあります。館腰小だとマラソン大会などで活用していたので、いいアイデアかと思います。

山田市長

なるほど。

長澤委員、何かございますか。

長澤委員

まちなにぎわいという言葉が出てきましたので、ぜひ観光にも結びつけてほしいと思います。古墳単体だけでなく、例えば閑上と組み合わせて食と一緒に楽しめるようにしたり、古墳のスタンプラリーを行ったりするなど、工夫できるのではないのでしょうか。

スタッフを常に配置するのは難しいと思いますが、楽しさを交えながら取り組むことで、より活用が進むのではないかと思います。

山田市長

今のお話でいうと、デジタルスタンプラリーもできるのではないかと思います。私自身も古墳をいろいろ回っていますが、説明板がある場所とない場所があり、また説明板もかなり古いものが多いと感じています。そこで、立派な説明板でなくても、A4 や A3 サイズの簡単な説明書きを作り、QR コードを載せることで、市内全域を巡るデジタルスタンプラリーが実施できるのではないかと思います。

荒井教育長職務代行委員

今の話調べてみると、奈良県では古墳カードを作っており、埼玉県では御墳印という取り組みもあります。スタンプのような形になるのかは分かりませんが、そうした“集めてもらう仕組み”もできるようです。

堀籠文化・スポーツ課長

去年、議員からも、そういった御墳印帳などのご提案もありまして、古墳BOOKとともに検討し、進めていければと考えております。

山田市長

あわせて古墳カードもぜひ検討をお願いします。
その他何かございますか。

布田委員

古墳BOOKは図書館にも置いているのでしょうか。

堀籠文化・スポーツ課長

配置はしておりません。

山田市長

年間 30 万人来るところなので、是非設置をお願いいたします。

布田委員

ただ置くだけでなく、「古墳コーナー」として、古墳に関する文献など並べれば、興味を持つ子もいるのではないかと思います。

堀籠文化・スポーツ課長

毎年図書館内に、文化財関連の文献などを展示したブースを設けさせております。今年度も設けさせていただく予定としており、古墳BOOKも配付予定としておりましたので、今回頂いた提案も検討させていただきます。ありがとうございます。

山田市長

他にございますか。

全委員

なし。

山田市長

それでは以上で本日の議題については終了とさせていただきます。
どうもありがとうございました。

千葉教育総務課長

それでは、以上をもちまして第26回名取総合教育会議を終了いたします。
ありがとうございました。

10 終了時刻

午後3時30分